最近の囲碁教室と子どものIT活用

八王子囲碁連盟会長　成田　滋

近年、囲碁界での子どもの活躍は、目覚ましいものがあります。12歳の仲邑 菫二段の十段戦予選進出とか、市立松木小学校出身で10歳の上田龍明さんの日本棋院院生合格など、囲碁愛好家の間ではもちきりの話題です。このような若者の躍進で刺激を受ける私ども愛好家ですが、おいそれと上達しないのが囲碁の不思議さです。山下敬吾九段は、「世界的には20代前半くらいまでがピーク」、将棋の大山康晴永世棋聖は,「勝率のピークは25歳くらい」と回想しています。私は、自分がなかなか上達しないことを諦観しています。しかし、決して「ボーっと生きてんじゃありません。」

八王子囲碁連盟(八碁連)は固有の伝統文化である囲碁の普及に努めています。その大切な活動の１つが放課後子ども囲碁教室です。私は教室で子どもに手解きを始めて７年目。最初は大和田小学校の教室に関わり、今は第四小学校と第十小学校でも担当しています。開設当初、第四小学校や大和田小学校は丁寧に対応してくれました。授業が終わると校内放送で教室のPRをしてくれるのです。新学期になると、全ての新入生の保護者に教室案内のチラシを作って渡してくれます。私も保護者や学校関係者向けに，毎月「放課後子ども囲碁教室ニューズレター」を発行しています。

ところで、市内全ての小学生に１人１台のタッチパネル付きのパソコン(学習用端末) が与えられています。先日、大和田小学校の教室で、子どもが家に持ち帰って充電するというパソコンを見せてもらいました。子どもはログインの仕方やインターネットの接続の仕方などを誇らしげに説明してくれます。私が【八王子囲

碁連盟のサイトはどこにあるの？】と聞くと、【検索するんだよ】といって八碁連 Web サイトを画面に出してくれました。４年生の１人は「家で放課後子ども囲碁教室ニューズレターをダウンロードして見ている」というのです。これには魂消ました。保護者はスマホでも囲碁教室ニューズレターを読んでいるとのことです。

今、放課後子ども囲碁教室では、タッチパネルを使って「生き死に」、「石を取る」、「地中に手あり」等の詰め碁をやっています。タッチパネルやスマホは、これから子どもが囲碁の練習問題と取り組むときは、ますます有力な手段となりそうです。IT のさらなる活用が、今後の子ども囲碁教室の持続的な発展に求められそうです。

（2021 年 6 月 5 日）